

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連のネットニュース「天健ネット日本語版」

2009年自動車新規登録台数が月間1万台

大連交通警察隊車両管理所の統計によると、2009年11月26日までに、全市自動車保有台数は737937台に達した。人口約600万の大連で10人に一人が保有していることになる。

交通警察隊車両管理所の統計によると、大連市自動車保有台数は737937台に達した。2009年1月から10月まで新しく登録された自動車は94656台に達し、そのうち小型自動車が74319台、中型・普通自動車が4590台、その他自動車が15747台で毎月平均登録新車台数は9465.6台。また、地方から大連市自動車保有数に繰り越される車両も少なくない。2009年1月から10月まで、地方から大連市の自動車総数に繰り越されたのは4980台、そのうち中小型車両が2889台、大型車両が50台、月平均498台が繰り越されている。

毎日、毎日自動車が増え続けている大連市。いよいよ10人に一人が自動車を持つ時代に突入した。街には、ポルシェやフェラーリまでもチラチラ見かけるようになり、BMWは7シリーズ、アウディはA8などヨーロッパ車の高級車種が数多く走っている。もちろんレクサスLSも。街を走る高級車率は、日本よりも高いように見える。

中国は、決して高級車が安く買えるわけではない、レクサスのLSで車体価格が、108万円～207.3万円（1元＝13～14円）で、日本での800万円～1250万円をはるかにしのぐ価格で販売されている。アウディについても、A5で50.4万円～78万円で、日本の582万～743万円を大きく上回る。

しかしながら、車の増加に貢献しているのは、このような高級車ではなく、小型自動車である。中国では、1600CC以下でホイールベースが2.45m以下の車を差し、中国国産自動車メーカーのものなら、3万元～5万元（40万円～70万円ぐらい）で購入できる。日本と同様に、安い車が数多く売れている。

この現象から考えられることは、大連市では今まで自動車を買えなかった、サラリーマンや個人商店経営者などが車を買うようになったこと。また、高級車を購入できる富裕層の家庭では2台、3台と車を所有するようになったことなどである。

確かに、以前の中国では、日系メーカーの車といえばクラウンなど比較的高級車しか見ることができなかった。しかし今では、カローラやティーダ、シビックなど日本の街を多く走る大衆車と呼ばれる車種を中国の街でみかけるようになってきた。

中国では、まずはマンションを購入し、その後に自動車を購入することが一般的なライフスタイルと言われている。しかし、今は、結婚するときには、親が援助してマンションの部屋を持っている夫婦も少なくなく、ローンで自動車を購入できる家庭が増えていることは事実だろう。

このような状況を見ていると、中国の都市部では、今までよりもさらに早いスピードでモータリゼーションが進むことが予想され、市街地の交通渋滞が深刻な社会問題となってくるだろう。

特に、大連市の市街地は、最初にロシア人が街を作ったこともあってロータリーが多く、そのロータリーに5本6本と幹線道路が集中して入っている。ロータリーを廃止して信号で制御しようとするれば、立体交差や地下道などが必要となり、莫大な道路改良費用が必要となる。

古い建物や街並みを生かして都市開発を行って来たことで、今の大連は他の中国の都市にはない魅力にあふれている。しかしながら、この猛スピードのモータリゼーションに耐えるためには、街の魅力を壊してでも道路を整備する必要があるだろう。

この難題をどううまく処理しながら、いかに今の美しい街並みを残していくかが、大連市にとって重要な問題になってくるだろう。